

入曽地区中学校統廃合検討協議会第3回会議録

- ・開催日時 平成23年7月21日（木） 午後6時30分～9時00分
- ・開催場所 入曽公民館3階ホール
- ・出席者 19名（欠席者1名）
- ・事務局 生涯学習部長 次長兼教育総務課長 学校統廃合担当課長
学校統廃合担当主任
学校教育部参事兼教育指導課長
- ・傍聴者 3名

【会議内容】

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

（1）入曽地区の中学校の統廃合について

（事務局） —— 配付資料説明（略） ——

※資料「小規模校化による問題点の考察」

（議長）「集団教育が阻害される」とありますが、阻害されるというよりは、十分な効果が得られないということだと思います。

（委員）小規模校というのは、どの程度の学校規模のことを指しているのですか。

（事務局）11学級以下です。

（委員）「教科学習や指導が不十分になる」ということは、標準規模になれば学力が上がると言っているわけですね。

（事務局）単純にテストの点数が上がるのかと言われれば難しいところですが、

そういった環境をつくることができるという面はあろうかと思えます。

(議長) 現実的にはいろいろなファクターが絡みますが、一般的に言えば、学力は上がるという理解でよろしいかと思えます。

(委員) 学校の先生は校務などがあって忙しいと言われていますが、具体的にはどういったことをやっているのですか。

(事務局) 授業時数が決まっているなかで、環境教育などといった新たな教育課題や指導面等において、やらなければいけない要求は年々増えていきます。そのため、限られた勤務時間のなかで、先生一人で三役も四役もこなしていかなければならないといった状況にあります。そういった状況のなかでは、一校当たりの先生の人数を増やした方が、それだけ負担は減らせるということになります。

(議長) 各学校には同じような委員会や部会がありますが、教員数の少ない学校では、新任の先生でもベテランの先生がやるような仕事を任せるといったこともあります。

(委員) 教師の仕事は基本的には教科、教務、生活指導の三つです。教務のなかにもいろいろあって、それらを分担してやっているので、人数が多いほど一人にかかる負担は減るということです。ただ、少なくともどうにかなる面はありますが…。

(委員) 教科以外でも担当者をしっかり決めておかないと、いろいろな面で学校を守っていくことはできません。いろいろな分掌を経験することは大切なことですが、やはり教員数が少ないと一人の教員が分掌する校務は増えます。

(委員) 狭山市の教育委員会は、基礎学力をつけることに比べて、学校行事や部活動を充実させることについては、どのくらいの重きをおいているのですか。

(議長) 特別活動については、学習指導要領にも人格の形成が謳われているとおり、非常に大きなウェートを占めていると考えています。

(委員) 学力よりも上ということですか。

(議長) 学力は、人間がしっかりしたうえで、その後についてくるものだと考えています。

(事務局) 今年度の狭山市教育委員会の重点施策としては、学力・体力の向上、道徳教育の充実、幼稚園から小中に至る連携などです。学力が何%で部活動等が何%ということではなく、それらを含めた形で学力というふうに考えていただければと思います。

(委員) 極端に言えば、部活動だけやってもいい、それで学力が落ちたってかまわないということですね。

(事務局) いいえ、そういうことではありません。部活動も一生懸命やることで、自分の学力の向上につながるという考え方です。

(議長) 新しい学習指導要領には、各教科を通して道徳的なことをしっかりやりなさいといったことも書かれています。

(委員) 国際的な流れを見ても、もっと学力の向上を重点的に考えるべきではないでしょうか…。

(委員) 家庭教育と学校教育と社会教育は、三位一体だと思っています。その三位一体をやるには、個人的には大規模校よりも小規模校の方がやりやすいと考えています。

(委員) 私は学力というのは数字だけで表わせるものではないと思います。学力というのは、学校行事や部活動、家庭や地域など全部を含めたものだと思います。別に成績が落ちようが、人間的にしっかりしていれば問題ないのではないのでしょうか。成績だけで偉くなっても、人格がなければどうしようもないと思います。私は、体育祭でも何でも多くの人と揉まれた方がいいと思っています。

(委員) 「地域社会との連携がうまく図れない」とありますが、むしろ小さい学校の方が連携をとりやすいと思うのですが…。入曽地区の3校は9学級か10学級くらいですが、現実的にはどうなのでしょう…。

(委員) 私もそう思います。これに関しては言っていることが全部逆だと思っています。

(議長) 昔と違って共働きが多くなっていますので、学校に来られる人たちは相対的に少なくなってきました。そうなるとスケールが小さくなれば、人数は限られてくるといった面はあると思います。

(委員) 地域の拠点でいえば、やはり二つより三つ拠点があった方がやりやすいはずですし、例えば入間中がなくなった場合、残る入間野中と山王中は地域の端にあるわけですから、本当にそういうことが言えるのかなど…。やはり、地域の中心にある学校が残っていなければ、地域との連携は図りづらいのではないのでしょうか。

(委員) 私は地域の活動にたずさわっていますが、中学校を拠点とした地域の活動なんてほとんどないですね。

(委員) そういった地域の活動がないのであれば、こういったこと自体書く必要はないと思います。

(議長) 僕らが現役の頃は公開講座をよくやっていましたが、最近はどうなのでしょう…。

(委員) 最近では、あまりやっていません。

地域社会との連携の件ですが、個別に見ていったときに、例えば「教員の数が限られるため、地域の要望に十分に応えにくい」とありますが、一人一人の分掌が多くなればなるほど、やはり教員が地域に出ていく機会は限られたものになると思います。

(委員) 学習指導面での意見ですが、各教科において担当する教師が一人しかいないということもあり得ると思いますが、やはり教員同士でディスカッションする場がないと、その一人の教師の主観に委ねられることになるので、非常に怖いと思います。私は小規模校の一番の問題点は、そこだと思っています。

(委員) 各教科で担当する先生が一人しかいないなんていうケースは、実際

にあるのですか。

(委員) 実技教科ではあります。実技教科以外の 5 教科については複数います。

(委員) 一人しかいない場合、研修や出張で出て行ってしまった場合、その教科の担当が誰もいなくなってしまうわけですが、そういった出張等は今でも多いのでしょうか。

(事務局) 出張は増えていると思います。ただ、学校の運営が第一ですので、どうしても空けられない場合は、校長先生がその旨指示を出しているはずです。

(委員) そういうふうに無理している学校は結構あるのでしょうか。

(事務局) 小規模校に限ったことではありませんが、例えば、いっぺんに 5 人くらい欠けるなどといった状況は、校長先生の立場としては避けたいところだと思います。いろいろな分掌が増えるなか、それぞれの分野で集まれと言われても困りますので、校長先生自身が学校を出なければならぬといったケースも実際には多いです。

(委員) 適正規模になって教員数が増えれば、そのあたり余裕が出てくるということですね。逆に多くなりすぎてしまうと、生徒に目が行き届かなくなってしまいますが…。要は小規模校ではそういう問題が現実的にあるということですね。

(事務局) はい。ただ、適正規模といっても、すべての学校に当てはまるというわけではなく、それぞれ地域性がありますし、地域によっていろいろな意見があるのは、どこでもそうだと思います。ただ、現在は 12～18 学級で議論が進んでいますので、あとは地域の皆さんから意見をいただいたうえで判断していくことになろうかと思います。

(議長) 校長先生方いかがですか、出張要請を断られたことはあるのでしょうか。

(委員) 確かに実際にはありますね。

(委員) 個人的には、適正規模は1学年3クラス以上と考えています。以前に、小規模校でも学校が組織として十分に機能していれば、学力の向上も期待できるといった話がありましたが、そういった点はしっかり考慮しなければいけないところだと思います。単純に4クラス以上が適正という考え方もどうなのかなと…。そして、この小規模校の五つの問題点につきましても、逆もすべて考えられるのかなとも思いました。やはり、この統廃合の問題については、子どもたちに視点をあてながら議論をし尽くしていく必要があると感じています。そして、私たち委員は、行政とともにより良い教育環境をつくりあげていくという観点で話し合っていくべきだと思います。

(委員) 実際の当事者である子どもたちがどう感じているかというのは私も気になるところです。今回の中学校の前に小学校の統廃合がすでに行われているわけですが、そのあたりの事情をお聞かせ願えればと思うのですが…。

(事務局) 入間野小と南小に行かせていただきましたが、人数が増えたこともあってか、子どもたちはとても生き活きと活動していました。子どもたちに直接話も聴きましたが、否定的な意見よりも、施設がきれいになって良かったとか、友達が増えて良かったなどといった肯定的な意見の方が多かったです。

統合前には事前交流を実施するなど、新しい学校をつくるという意識で統合に向けて取り組んできた経緯があります。

(委員) それなら良かったですね。

(事務局) 狭山台ではアンケートを取りましたが、保護者から聴取した結果としては、統合して良くなかったと答えた方は全体の5%くらいでした。子どもたちからの聴取で多かったのは、やはり友達が増えて良かったということでした。否定的な意見としては、通学距離が遠くなったなどといった意見がありました。

(事務局) ——— 配付資料説明(略) ———

※資料「狭山市の予算等の現状」

(議長) 1校中学校が減れば、ランニングコストは1年間で3,600万円くらい削減できるということですね。

(事務局) 統合先の学校の人数が増えることによって、消耗品等がより必要になってくる部分もありますので一概には言えませんが、大体それくらいの額を削減できると理解していただいてよろしいかと思えます。

(委員) 2ページにある歳入と歳出の差額は何なのでしょう。

(事務局) その差額につきましては、次年度に自動的に繰り越されます。ですから、次の年の歳入に入ることとなります。

(委員) 学校の費用というのは、どこが主導して予算をとるのですか。

(事務局) 予算の編成権は市長にしかございませんので、教育委員会ではなく市長の専権事項です。

(委員) ただ、原案は教育委員会で決めるということですね。

(事務局) はい。ただ、予算は限られた歳入のなかで市全体として決めていくものですので、必ずしも要望した通りに教育関係の予算が通ることではありません。

(委員) 学校を建てる場合は、6ページにある普通建設事業費にあたるのですか。

(事務局) はい、そうです。

(委員) 国が学校の耐震化を進めるなか、入間中のような古い学校でも耐震工事はできると思うのですが、そのあたりはどうなのでしょう。

(事務局) 学校の耐震化につきましては、平成27年度までに完了するようといった指導が文部科学省からありました。それに基づきまして、狭山市としてもすべての校舎と体育館について、27年度までには工事を行う方向で計画しております。

(委員) 27年度まで入間中が残れば、耐震補強工事を行うということですね。

(事務局) はい、その予定です。

(委員) 1ページの人口ですが、狭山市全体では年少人口は減っていますが、入曽地区の中学校の生徒数は、前回の資料で見ますと今年度に比べて平成27年度は増える見込みです。クラス数を見ても、平成29年度でもさほど減少しないことが予想されています。それと、前回の会議で8クラスと9クラスとでは教員数の配当に大きな違いがあるとのことでしたが、平成29年度までは、どの学校も8クラスになることは推計の上ではないということによろしいですね。

(事務局) はい。

1ページの人口の推移につきましては、基本的には、今後の市全体の税収を見極めるうえでの生産年齢人口の減少の度合いを示したものであります。

(委員) 入曽地区で人口が増える傾向にあるのは、12区の東急台の団地とかが相続の発生によって土地が分割されて、小さい住宅がかなり建ってきているからだと思われまして。ですから、現在における推計よりも実際にはもっと増えるのではないかと個人的には認識しております。

(事務局) ——— 配付資料説明(略) ———

※資料「中学校3校を2校に統合した場合のシミュレーション」

(委員) この表で言うと単純計算では、統合前は先生一人当たりで18人強の生徒、統合後は先生一人当たりで21人強の生徒をみるということになります。先生方にお聴きしたいのですが、統合前より人数が増えますが、こういうのは如何なものなのでしょうか。

(委員) 1クラスの人数が減れば減るほど、担任としては楽です。

(委員) 統合すると一人の先生が受け持つ生徒の数が増えてしまうわけですから、結局、統合によるメリットは約3,000万円のコストが削減できるということだけですかね。

(事務局) この資料は、3校が同規模であることを前提に単純に二つに分けただけのものですので、見えづらい面があろうかと思えます。もう少し具体的な段階になれば、もっと細かいシミュレーションを提示したいと考えております。ただ、教員数だけではなく、生徒数が増えれば活気が出るなどといった側面もありますので、そのあたりも考慮したうえで検討していただければと思っております。

(議長) 他に何かありますか。

(委員) 「小規模校化による問題点の考察」の資料の最後に、解決案として通学区域の変更・拡大がありますが、中学校の場合は自転車通学もできますので、小学校に比べて多少広くなっても大丈夫だと思います。それと3番目にありますように、やはり、できるだけ少人数学級になった方が望ましいと思います。

(委員) 先ほど平成27年度までに耐震工事をするとの話がありましたが、入間中は未だ終わっていません。これから入間中の耐震工事を行う計画はあるのですか。

(事務局) 入間中につきましては、平成26年度に工事を行う予定です。

(委員) 山王中と入間野中の耐震性が確保されているということは、この入間地区の統廃合については、単純に考えて入間中がなくなる可能性が高いということですよ。平成26年度に工事ということですが、結局それまでには統廃合を行うということですよ。

(事務局) 統廃合の対象校の検討に際しては、いろいろな要素を踏まえたうえで結論を出していただければと思っております。最初に申し上げましたけれども、事務局からここですというふうに最初から押し付けるつもりはありません。

(委員) 子どもたちの安全を考えれば、もっと早く耐震工事を進めるということも考えられますよね。

(事務局) 確かにそれはその通りだと思います。
学校の耐震につきましては、校舎だけではなく体育館も今後工事を

進めていく必要があるわけですが、入間中の校舎よりも耐震性が低い体育館も多く、そのあたりの状況も踏まえての工事の順番も考慮が必要と思われます。

(委員) 入間小出身で入間中に通っている生徒は、出身校が全部なくなってしまうわけですね。先ほど統合先の子どもたちは喜んでいいるとの話がありましたが、出身校がなくなってしまうというのも事実なので、良いことばかり仰っていますが、そういう思いをしている子どももいるということも頭に入れておいていただきたいと思います。

(委員) 私は、西中のような標準規模の学校と入曽地区の3校を、学力や部活の面で比較してもらいたいと思っています。例えば、進学校に何人合格したかなどといったデータを提示してもらいたいと思います。要するに西中は標準規模校であるから素晴らしいと、そういうことですよね。小規模校では素晴らしくないから、標準規模校にしましょうと…。基本的には標準化したらすべて良くなるはずですよ。ですから、そういった客観的なデータを出していただきたい。私が入間中に通っていたころも小規模でしたが、進学校に合格した生徒は他の学校の3倍くらいいましたよ。校内暴力も全くなかったですし…。西中や東中は、部活は人数が多かったから確かに強かったですけど、校内暴力の問題とか結構ありましたよ。

西中は適正規模なのだから、入曽の3校より優れているはずですよ。

(事務局) でも、それですと立派なグラウンドがあれば、そのチームは絶対に強いといった論理と同じになりませんか。

(委員) だけど、実際ハードのことしか言ってないじゃないですか、教員の数だとか、学校の設備だとか。私はハード面だけではなくソフト面も重要だと思っていますから。それと、生徒数もクラス数も減少すると言いますが、減少しないじゃないですか。8クラスでは支障が生じて、9クラスでは大してデメリットはないということですよ。

私は基本的に統廃合には反対です。とくにやる必要はないと思っています。

(事務局) ただ、入曽地区3校の生徒数に関しては、若干の減少傾向にあると

言えます。

(委員) それは統計上の誤差であって、ほとんど変わらないということですよ。減ってないのに何で統廃合しなきゃいけないのかっていうのが私の意見です。

(委員) 方法はともかく、統廃合に賛成か反対かということ、そろそろ出してもよろしいのではないのでしょうか。挙手は難しいと思いますが、賛成反対とその理由をそろそろ挙げていただかないと堂々巡りになってしまうような気がします。

(議長) 一つ確認しておきたいのは、私たちが検討しているのは入間中だけで考えているのではなくて、入曽地区の 3 校で考えているということです。

(委員) この会議は、統廃合はやらないという判断を出してもいいわけですよ。私は統廃合には反対です。市が言っていることには納得できません。空論だと思います。

(議長) 私としても、統廃合を行うべきか行わないべきかという結論をそろそろ出していかないといけないのかなとは思っているのですが…。

(委員) 私はもう少し議論してもいいのかなと思います。

(委員) すいません、私が言ったのは、あくまでも今の時点での賛成反対ということですので、ここで挙手してもらって多数決で、ということではありません。

(議長) 入間中は山王中や入間野中に分かれたという経緯があり、統廃合ということではありませんが、当時の生徒はそういった経験をしてきているというところはあります。

(委員) 教育委員会から出されている資料に関しては、一般論という面から見れば、私は十分に理解できます。実際に現在の 3 校で問題があるのかということだと思うのですが、入間中については現実問題としてグラウンドが狭いですよね。校舎も小さいし天井も低いと思います。

そういうことを考えるとこのままでどうなのかと…。先生方は今の状況でも一生懸命やられてらっしゃると思いますが…。今後も一学年 3 学級くらいで推移するとのことですが、現実的に何が問題であり課題なのかということ、もう少し出してもらう必要があるのかなとは思っています。

(委員) 私は小学校の統廃合の会議も出させてもらったのですが、結局堂々巡りするだけでしたよね。議論するのは結構ですけど、同じことを何回も繰り返すだけではちっとも前に進まないですよ。

(委員) いや、それは違うと思いますよ。もっともっとやらなきゃいけないと思いますよ。

(議長) 次回あたりで、どちらかの方向で決めるということで如何でしょうか。

(委員) それは、決めるとかっていう問題ではなくて、議論していくうちにいろいろと問題が出てくるわけですから、次回にどうしても決めなければいけない理由はないと思います。

(委員) 期限を切って決めなければいけないことではないとのことでしたから、もっと議論をするべきだと思います。対立ではなくて、互いに良いアイデアを出し合いながら、互いに耳を傾けて、皆で良い方向に進めていこうとする姿勢が大事だと思います。市が決めたから同意してくださいということではなく、そうじゃない方法で話し合いましょうと行政の方が言って下さっているわけですから…。

(事務局) 今までは具体的な検討に入るか否かのところの入り口の議論です。具体的な名前は出さずに一般的な話をしてきたわけですが、次回からはもっと具体的な協議に入らせていただければと考えています。例えば、具体的な学校名を出した形で資料を作らせていただければと考えておりますので、それらを基にいろいろな意見を出していただければと思っております。

(議長) 次回は、もう少し具体的な資料が出るということですね。

(事務局) シミュレーションの資料につきましても、あくまでも検討の材料ということで、具体的に学校名を出す形で作らせていただければと考えています。

(議長) わかりました。

(委員) 現実的に一学年 3 学級では苦勞することが現場ではあろうかと思えます。その辺も含めた地域の中の現状が見えてこなればいけないのかなと思います。

(委員) 私も知らないことはいっぱいありますから、むやみに反対するつもりはありません。ただ、今までの議論を聴いていると、そう言わざるを得ないということです。

4 閉 会

【配付資料】

- ◆ 第 2 回会議録
- ◆ 小規模校化による問題点の考察
- ◆ 狭山市の予算等の現状
- ◆ 中学校 3 校を 2 校に統合した場合のシミュレーション